

# ジョブ型研究インターンシップの 先行的・試行的取組に向けて

文部科学省文部科学審議官

松尾泰樹  
まつお ひろき



2020年1月に総合科学技術・イノベーション会議が取りまとめた「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」では、産業界へのキャリアパス拡大や博士課程の魅力を上させる取組として、企業との連携による長期有給インターンシップの推進が位置付けられた。また、同年3月に「採用と大学教育の

ターンシップ(以下、本インターンシップ)の推進に向けた議論を行っている。その議論を踏まえ、このたび、文部科学省は、ジョブ型研究インターンシップ(先行的・試行的取組)実施方針(以下、実施方針)を策定した。

## ジョブ型研究インターンシップの目的

未来に関する産学協議会」が掲げた10のアクションプランにおいても、「大学院生・修士・博士」を対象とした新たなジョブ型採用につながる長期インターンシップの試行を推進する」とされている。これらを踏まえ、文部科学省および日本経済団体連合会は、ジョブ型研究インターンシップ推進委員会(以下、推進委員会)を共同設置し、ジョブ型研究イン

本インターンシップの目的は、大学院教育の一環として行われる長期間かつ有給の研究インターンシップの普及により、次のことを文化として社会に定着させ、Society 5.0に相

応しい雇用のあり方と高等教育が提供する学びのマッチングを図ることを目的としている。  
・優秀な大学院学生が、安心して博士課程への進学を選択できる環境にあること

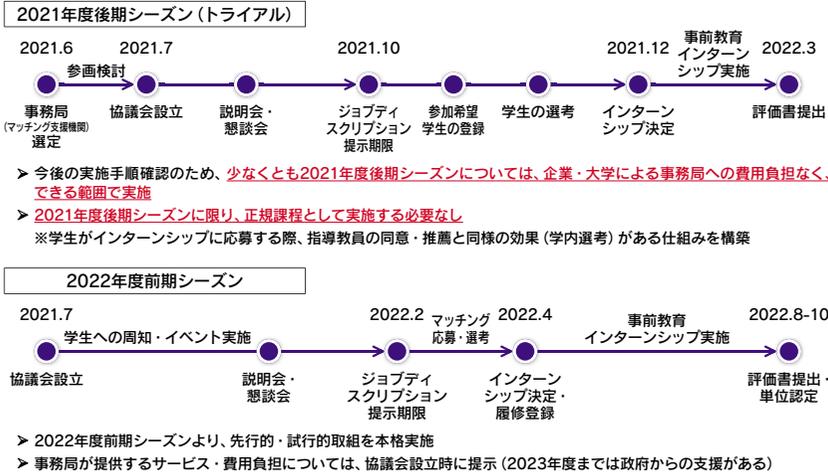
・今後拡大が見込まれるジョブ型採用を見据え、産業界と大学が連携して大学教育を行い、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を養成すること  
・学業に支障を来すことなく、学生の成長に

とって有意義なインターンシップが行われ、学修成果を活用した採用活動が行われること

## ジョブ型研究インターンシップ (先行的・試行的取組)の概要

本インターンシップは、マッチング、ジョブディスクリプションの内容、報酬水準、学業と両立できる勤務形態、採用・就職への活用など多くの課題があることから、これらの課題を検証していくべく、本インターンシッ

図表 当面の進め方



プに参画する大学、企業等からなる協議会を設け、先行的・試行的取組から推進することを予定している。実施方針では、本インターンシップの要件を次のように定義しており、特にジョブ型・有給、正規の教育課程、採用選考活動に反映可能などがこれまでのインターンシップの潮流とは大きく異なる点である。

- ・研究遂行の基礎的な素養・能力を持った大学院学生が対象
- ・長期間(2カ月以上)かつ有給の研究インターンシップ

- ・正規の教育課程の単位科目として実施
- ・本実施方針に沿ったジョブディスクリプション(業務内容、必要とされる知識・能力等)を提示

- ・インターンシップ終了後、学生に対し面談評価を行い、評価書・評価証明書を発行
- ・インターンシップの成果は、企業が適切に評価し、採用選考活動に反映することが可能

当面の間は、博士課程学生であつて、学生の専攻分野は自然科学系を対象とするが、修士課程学生や人文社会系への拡大についても引き続き、推進委員会において検討する。

マッチング、インターンシップの実施、普及展開などに関する支援を提供するために、協議会に事務局(マッチング支援機関)を置くこととしており、現在求人・求職サービスなどを行っている団体から文部科学省が選定し、政府予算に基づき3年間支援を行う予定である。点と点ではない面と面によるマッチング、人力だけではないデジタル技術も活用したマッチングを通じて、大学、企業、学生の多様な出会いを効果的・効率的に支援できる環境ができることを期待している。

## ジョブ型研究インターンシップの定着に向けて

科学技術・イノベーションを担うのは「人」であり、これを主導する人材を育成する大学院における教育プログラムの充実・実質化は、我が国の研究力、産業競争力の両面にとって極めて重要な課題である。この課題に向き合うために必要なのは、本インターンシップの目的の通り、雇用のあり方と高等教育が提供する学びのマッチング、即ち取得した学位がいかに学生の将来に寄与するののかという視点であり、本インターンシップをはじめとした産学協働による取組が求められる。

70大学、100企業を超える関心をいただいており、本インターンシップへの期待の高さを感じている。図表に示す通り、トライアルを今年度後期から、先行的・試行的取組の本格実施を次年度から実施することを予定している。今後、競争力を高めるべく専門性を持った優秀な人材の確保を積極的に行いたいとお考えの企業には、ぜひ前向きに協議会への参画をお願いしたい。

これからの背負って立つ大学院生が、経済的な面やキャリアパスへの不安から、博士課程への進学を断念するようなことがないよう、奨学金などの経済的な支援の充実や本インターンシップの推進を含め産学協働による大学院教育の充実・実質化に取り組んでいきたい。